

衣服は、「作って着る」時代から「買って着る」時代となった。ファストファッションといわれる安価な衣服が流通し、衣服の素材や管理に対する意識は低下している。衣服の素材にはどのよう

な特徴があるか、汚れや黄ばみのでき方と洗濯・クリーニングの仕方を資料や実験映像で概観し、日ごろ中学生・高校生が何気なく着ている衣服について、あらためて関心を持たせる。

映像の項目・内容	指導の内容・ポイント
オープニング	<p>◇「着る」という行為は、人間が持つ特有の行為である。衣服は、私たちのからだを快適な温度・湿度で包む、学生服やスーツなどで社会の一員としての調和を保つ、自己を表現する手段となるなど、さまざまな役割を持っている。</p>
流通の歴史 ◆既製の隆盛 ◆縫製の機械化とファッション業界の成長 ◆衣類の輸入浸透率	<p><衣類の歴史と現状></p> <p>◇現在、当たり前のように既製服が売られているが、日本における既製服の歴史はそれほど長くはない。昔は、衣服といえば注文服や自家製服が中心であった。</p> <p>◇1960年代、高度経済成長期の日本では縫製の機械化が進み、既製服の大量生産が可能になった。販売店で衣服が簡単に手に入るようになり、「衣服は購入して着る時代」になったと言われる。既製服の普及とともにファッション業界が成長し、様々な流行が生み出されることになる。</p> <p>◇輸入浸透率とは、国内の衣服の需要のうち、輸入によってまかなわれている割合をいう。日本の輸入浸透率は90%を超え、そのうちの多くは中国からの輸入で、近年では工業化が進むベトナムや Bangladeshなども増加している（2016年データ）。浸透率が高くなる理由のひとつとして、生産工場を低コスト（労働賃金の安い）の海外に設ける企業が多いことが挙げられる。</p>
衣服の素材の種類と特徴 ◆原始機と自動織機 ◆織物 （平織、斜文織、朱子織） ◆編物 （よこ編、たて編） ◆天然繊維と化学繊維	<p><織物と編物の特徴、新しい機能を持った繊維></p> <p>◇日本の織物の歴史は、弥生時代に原始機（げんしばた）からはじまった。織物は、縦糸と横糸を交差させて織る布で、今では自動織機によって作られている。DVDには、ハイスピードカメラの映像が収録されており、自動織機で縦糸がわずかに開く瞬間に横糸が飛び出す様子を確認することができる。</p> <p>◇織物は、糸の交差のさせ方により分類される。以下の3種類を、「三原組織」という。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平織（ひらおり）：糸の交わりが多く丈夫。ブロードやギンガムとして、シャツなどに使われる。 ・斜文織（しゃもんおり）：平織よりなめらかで、デニムとしてジーンズなどに使われる。綾織ともいう。 ・朱子織（しゅすおり）：表面がなめらかで光沢がある。サテンとしてドレスなどに使われる。 <p>◇編物は、糸をループ状にからませて編む布のこと。ループを連ねる方向によって、よこ編とたて編がある。よこ編の代表的な編み方「平編」は、横方向の伸縮性が大きく、セーターやストッキングなどに用いられる。たて編の代表的な編み方は、目が細かく伸びが抑えられるため、水着やジャージ、スポーツウェアの裏地などに用いられている。</p> <p>◇繊維には、植物繊維（綿・麻など）と動物繊維（毛、蚕からとれる絹）からなる天然繊維と、石油や石炭からなる化学繊維がある。1937年にアメリカ合衆国でのナイロンの開発を皮切りに、多様な質感や機能をもつ繊維が誕生しており、スポーツウェアから着物まで、幅広い衣服に使われている。近年では、汗などの水分がつくと表面に凹凸ができ、通気性を良くする繊維（自己調節機能繊維）や、消臭加工された繊維など、新しい機能をもった繊維が日々開発されている。</p>
衣服の管理 ◆黄ばみのでき方 ◆衣服の汚れが洗剤で落ちるしくみ （界面活性剤のはたらき） ◆ドライクリーニング ◆衣服の保管 ◆古着のリサイクル	<p><黄ばみなど汚れのできかたと衣類の洗濯、管理方法></p> <p>◇人体から出た皮脂が布に付着し、空気中の酸素と化学反応を起こして酸化すると黄ばみができる。さらに温度や湿度が高くなると、黄ばみの化学反応が活発に進み、より頑固な黄ばみとなる。</p> <p>◇衣服の機能を回復させ、清潔に着用するために洗濯を行う。洗濯に使用する洗剤の主成分は、界面活性剤である。界面活性剤は、水と吸着しやすい親水基と、油と吸着しやすい親油基から構成される。界面活性剤の働きには、汚れと洗濯物の間に入っていき浸透作用と、汚れを洗濯物から浮かせ取り除く乳化・分散作用、汚れが再び洗濯物につくのを防ぐ再汚染防止作用がある。</p> <p>◇ドライクリーニングは、石油系や塩素系の有機溶剤を使って汚れを落とす方法で、衣類の型崩れ、色落ちがしにくいのが特徴である。変色、穴あきなどのトラブルが起こることもあるため、衣服の表示を確認する。また、事故が起こった時の賠償制度についても知っておきたい。</p> <p>◇衣服は、①保管する前に汚れを落とす、②除湿と換気を忘れない、③クリーニング後はすぐに袋から出すなどに注意して保管する。また、虫食いの被害から衣服を守るには、スチームアイロンをあてて卵の孵化を防ぐ方法もある。さらに密閉できる容器に防虫剤を入れて保管すれば、なおよい。</p> <p>◇日本で捨てられる衣類は、年間およそ100万トンにもものぼる。中には、形を変えて再利用されているものもある。セーターなどをほどいて糸に戻したり、背広は裁断して加工し、マットの材料となる反毛フェルトとなったり、タオルを裁断して工業用ウエスとして航空機の整備などに活用されている。</p>
エンディング	<p><まとめ></p> <p>◇生徒自身が着用している素材の種類や特徴、手入れの方法などを具体的に考えさせ、「装う」ことが楽しくなるように指導したい。</p>